



# 目どるの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

地域の弱点を、利点に変えて活動!

## 岡本団地自主防災防犯部

岡本団地自主防災防犯部は、平成18年に結成されました。岡本団地は越辺川流域に面し、地区内に用水路が流れています。

自主防災組織の設立にも関わりが深く、現在会長を務める高橋丙午さんは、「万が一、大きな

災害が起こってしまった際、自分の住む地区に真っ先に救援が来るとは限りません。行政や他人に頼らず、自分自身を守ると

いう意識を持ってもらうことが大切だと考えています」と話します。これまで身近に考えられる災害、特に水害を想定して活動を行ってきたといえます。自主防災防犯部の結成後、すぐに

用水路や川沿いに注意喚起の看板を設置したそうです。また、万が一越辺川が氾濫したときの事を考え、団地内の高台に一時避難場所を確保しました。

高橋会長は、「団地には、様々な地域から毛呂山町に来た人が住んでいます。そんな皆さんの意見を引き出し、活動が

展すれば、地域の活性化にも繋がります。特に次世代のことを考えると、今が活動の基礎作りの時期です」といいます。岡本団地では、決して仕事を押し付けたり、辞める人を無理に引き止めたりはしないそうです。

役員や自主防災防犯部の部員がお互いに助け合い、地区で出来ることは自分たちの力でいい、それでも足りない所を行政に頼る。岡本団地は、まさに自助・共助・公助を実践しようとしている地区といえるのではないのでしょうか。

止めたりはしないそうです。役員や自主防災防犯部の部員がお互いに助け合い、地区で出来ることは自分たちの力でいい、それでも足りない所を行政に頼る。岡本団地は、まさに自助・共助・公助を実践しようとしている地区といえるのではないのでしょうか。



岡本団地内に設置されている注意喚起の看板

## 毛呂山歴史教室 第243回 アプタン先生と毛呂山町 ～国際交流の先駆者～

エリザベス・F・アプタンは、キリスト教の宣教師として明治の終わりごろに来日。そして、昭和9年(1934)に毛呂山町に移住し、幼児教育と社会福祉事業に取り組みました。毛呂山町の人びとは、敬愛の念をもって彼女を「アプタン先生」と呼びました。

アプタン先生は、明治13年(1880)、アメリカのメイン州に生まれました。父母ともに敬謙なキリスト教徒であり、このような環境がアプタン先生を伝道の道へと誘ったようです。

アプタン先生は、毛呂山町に移住してから、「愛をもって互いに仕える」という聖書の言葉に従い、毛呂山町の人びとと積極的に親睦をはかりました。

第二次世界大戦が終わった昭和22年(1947)、アプタン先生は再来日を果たします。戦後の混乱期で物資が不足する中、様々な機関から医療品や粉ミルクなどの救援物資を調達し、率先して毛呂山地域に回すなど尽力しました。そして、戦時中に接収され失われた教会や幼稚園を設立し、再び幼児教育と保母養成教育、福祉事業に邁進します。

昭和39年(1964)、アプタン先生は、その優しさに満ちた多くの功績が認められ、毛呂山町初の名誉町民の称号を授与されました。今年アプタン先生が名誉町民になって50年の節目にあたります。

様々な功績を残したアプタン先生は、昭和41年(1966)85歳の生涯を閉じました。慈愛に満ちた草の根国際交流の先駆者・アプタン先生のこととは、恵まれた時代に生きる私たちこそ、忘れてはならない大きな存在といえます。



アプタン先生  
(昭和33年撮影)  
毛呂山聖霊教会蔵